

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武藏村山市立第一中学校

経営理念	学校像 (1) 基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心豊ともに健やかな生徒が育つ学校 (2) 地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校 (3) 道徳的心情や道徳的実践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校
------	---

【学校運営協議会・会長】小泉 亨
学校運営協議会（学校評価分）第1回 7月20日（火）
第2回 9月25日（火）
第3回 2月15日（火）

項目	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価
				目標値 9月 達成値 1月 達成値	最終評価 達成度 評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	
確かに学力の向上	【共通】全生徒に対しての基礎学力の定着 短期	<ul style="list-style-type: none"> ・eライブラリードバンスを活用した家庭学習推進に全校体制で取り組み、年度末には継続して活用している生徒8割以上を目指す。 ・地域未来塾を活用した補充教室や質問教室を実施する。(地域未来塾年間70回以上実施。うち20回は夏季補充教室として実施する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域未来塾の実施回数 ・eライブラリの継続実施割合（アンケート） <ul style="list-style-type: none"> ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価 	80	達成度 評価			
	教員の授業力向上 中期	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想2年目としてタブレットを活用した授業研究をさらに推進させ、全教員にタブレット活用授業を学期1回以上実施し、管理職が観察する。 ・年2回以上の道徳科の授業研究を通じて道徳教育の研究をさらに深め、授業改善を進めていく。 ・教科年間計画を週案に添付させて、管理職が毎月進行状況をチェックして教育課程を適正に管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット活用授業の実施回数 ・教員の自己評価 ・生徒の授業評価 ・保護者の学校評価 	90	達成度 評価			
豊かな心の育成	校内研究による生徒の変容 長期	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の一中校区授業交流を実施し、「学力（特に数学）」「ICT教育」「道徳」の共通課題に対して現状の共有と具体的な対策を最低1つスタートさせる。 ・校内研究会を「道徳」と「ICT教育」の2本立てとして、毎月研修会を実施してその成果を日常の授業に生かす。道徳地区公開ではICTを活用した道徳授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区3校で具体的な対策に取り組めたか ・道徳地区公開の外部評価（保護者・学連協） ・教員自己評価 ・生徒学校評価 	80	達成度 評価			
	【共通】いじめ撲滅への取組 短期	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット(特にSNS)に関するモラルを高めるため、保護者へ教職員への研修と生徒への教育の機会を全校体制でつくり、年1回以上の実施を定例化し、深刻なネットトラブル発生0を目指す。 ・生徒会主催の「いじめ撲滅キャンペーン」を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施回数 ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価 ・学校運営協議会の評価 	90	達成度 評価			
健やかな体の育成	特別な支援を要する生徒への対応 中期	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会を月2回実施し、1回は特別支援教室入退室判定会議とし、もう1回を不登校生対策会議として、不登校生対応組織に対応できる体制をつくる。 ・SCや巡回心理士の専門性を生かせる場面を増やし、特に保護者相談の件数を倍増させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒20名以内 ・保護者相談件数前年比倍増 ・教員の自己評価 ・学校運営協議会の評価 	90				
	挨拶をよくする生徒の育成 長期	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」への教員参加を定着させ、生徒会と連携しながら挨拶をする機運を高める。 ・キャリア教育と運動して『社会人としてのマナー』のひとつとしての挨拶の重要性を学はせ、地域行事やボランティア、校外活動の中で実践させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」への教員参加人数のべ100名以上 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価 ・学校運営協議会の評価 	80	達成度 評価			
信頼される学校	「学校2020レガシー」の構築及び体力向上の推進 中期	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までのオリンピック・パラリンピック教育の成果を生かし、体育的行事をさらに充実させるとともに、全教育活動における「学校2020レガシー」を構築する。 ・一中の伝統となりつつある『ダンス』授業を中心に、生涯スポーツにつながる体育教育を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト結果の変容 ・教員の自己評価 ・生徒の授業評価 ・保護者の学校評価 	80				
	特別活動の充実 長期	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事や部活動については、昨年度同様、新しい活動様式に基づく計画を立案し、生徒の満足感が最大限引き出せるような活動していく。 ・コロナ収束後は、収束前の活動に準じたボランティア活動を再開させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドラインに沿った部活動運営が100%為されているか ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者・学連協の評価 	75	達成度 評価			
	地域行事やボランティア活動への積極的な参加 短期	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ沈静後は、生徒会主催でボランティア参加者を募り、実施後には見える形で参加者を評価する場面をつくり、ボランティアへの参加意欲を高める。 ・ボランティア活動の様子をツイッターやHPを通じて積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な参加者数の増加 ・生徒の自己評価 ・地域・保護者の評価 ・教員の自己評価 	70				
	地域の人材を活用した教育活動の実践 中期	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用できる最大の行事である『ティキティキフェスティバル』を感染対策を万全にした上で実施する。PTAとも連携して新規講座を増やし生徒の体験の幅を広げてさらに地域とのつながりを深める。 ・学校運営協議会を学校行事の日に当て、行事の参観を通して現状を把握し、協議を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材活用の実施状況（講師人數） ・教員の自己評価 ・生徒の学校評価 ・学校運営協議会の評価 	85	達成度 評価			
	特別活動の充実 広報活動の強化 長期	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT委員会によるホームページの更新やツイッター発信を月2回以上を行い、リアルタイムな広報活動を強化する。 ・全校的に取り組んできている実行委員組織や班長会等の取組は継続し、さらに若手教員の学級経営を支援するための研修の機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信回数 ・研修実施回数 ・教員自己評価 ・生徒の学校評価 ・保護者の学校評価 ・学校運営協議会の評価 	80	達成度 評価			

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A : 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B : 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C : 5割未満→目標の見直し

平均値 #DIV/0!